

ブレトンウッズ体制の主な具体的な内容は歴史を見れば色々分かるが、おおよそのところだけ言うと、四つくらい挙げられる。一つはブレトンウッズ体制で目指したものを実現するための重要な約束事の一つは、為替取引に介入して貿易を規制するという為替取引の規制を撤廃して自由にするということ。それから各国の通貨の兌換性、交換性を確保する。これらを国際的な約束として履行するとした国々を先進国といい、日本は1964年のオリンピックの年にそれを宣言して先進国の仲間入りをした。

第二番目の中身は、IMF の加盟国の通貨の公定レートは1オンス = 35ドルという金にリンクした US ドルに固定化されていた。つまり、各国の通貨の為替レートは US ドルによって表示する。US ドルは1オンス = 35ドルという金によって担保される。それに基づいて日本の円は1ドル = 360円という風にブレトンウッズ体制のスタートの時点で US ドルとの公定レートが決まっていた。

3番目は結局これは、結局ブレトンウッズ体制は固定相場制であるということを歴史的に意味づけられている。各国の通貨が US ドルとリンクする、表示する。しかも、US ドルは金とリンクしているということで、実質的には固定相場制を意味した。

4番目は様々な景気循環の流れの中で、為替相場が不安定になる。市場ではドルや円が色々売り買いされ、為替相場が不安定化する。しかし、各国は固定相場制を維持しなければならないので、為替相場にきちんと介入し、固定レートを維持するための義務を、金融当局は負うのである。金融当局は義務を負うためには、一時的に円買いドル売りということで円のレートが下がろうとしたときには、円を買ってドルを売るという買い戻しをするということである。すると売るドルがないとこれはできない。従って各当局は売るためのドルを IMF の基金から借りて、為替相場を安定化させるための担保にする。そういう機能を IMF は果たす。外国為替市場が変動する。しかし、公定レートで維持すること学科の国際約束なので、円が上がろうとすれば円を下げるための介入をしなければならない嗜虐もまた然り。これを行うために一時的に IMF から融資を受ける。という感じで、為替相場が固定相場制の下で基本的に金融的な面で貿易にあまり介入しないという体制の中で IMF が機能している。

ところが現実では必ずしもブレトンウッズ体制の下で、景気循環の中ですごく景気が悪くなって失業が増えたとか経常収支が赤字になったために、何とか相殺すると言ったことがなかなかできない。ということで、多くの国々が色々な問題を抱え始める。従ってブレトンウッズ体制の下で、必ずしも国が目的とする様々な目標を同時に達成できないかもしれないということが徐々にわかって来るのだが、そういった中で理論的な背景になっている学問体系が世の中に登場し、多くの政策を決める当事者達の軸になる学問としてケインズ経済学が1936年にまとまった形で公表される。「雇用・利子及び貨幣の一般論」

新しい視点の枠組みであった。なぜ新しいかということ、簡単に言うと、ミクロの均衡がそ

のままマクロの均衡になるという保障はないということ。人々が合理的な行動をして市場が効率的に運営されていたとしても、国・国民経済という枠組みで世界の国々が動いているとすれば、国際社会が一つの国という枠組みの中で経済のパフォーマンスを評価したり人々の豊かさを表現したりしていく。国民経済そのものがどういう風に運営されているかも評価していかなければいけないし、議論する経済論も必要になる。そこで登場したのがケインズ経済学で、つまり国民経済という枠で経済活動を集計していく。そこでケインズは国民経済として一つの政策運営をしていく。政策を考える上で何が一番大事か。誰のための、どこまで及ぼす範囲で政策を考えるか。国民経済という範囲で考える。目的があって手段があって効果分析があってというように、政策論は展開してゆく。ケインズも、政府は必然的にどういう政策をしているのかというように政策論に問題を見いだそうとしていた。

ケインズ革命といわれるのは、集計するときに、車10台と米10トンはすべて貨幣表示にしないと足すことはできない。国民経済計算はその国の名目貨幣単位で表示し直すがあるのだ。すると貨幣で集計していくと貨幣そのものの価値によって名目値が大きくなるかも知れないが、実は貨幣の価値も変動だけで実質的にはそれほど生産力は上がっていないかも知れない。従って記入や貨幣の役割がとても重要になってくる。名目で増えても貨幣の価値が下がったために見かけ上 GDP が大きくなっているかも知れない。従って貨幣的な側面の持っている重要な役割を再認識しようというのがケインズの重要なポイント。名目と実質という概念が明確化する。

ケインズ革命の下に色んな政策論議が出てくるが、結論としてケインズは何が言いたかったかということ、議論の展開を見ると、国民経済というのは一つの目標に向かって動いているわけではなく、複数の目標がある。複数の目標を同時に達成できれば問題ないのだが、世の中はそんなに単純ではなく、ある目標を達成しようとするれば他の目標を犠牲にしなければならない。そういう目標の淘汰が、政策問題は相当大きな意味を持っている。そうすると、少なくとも国民は最終的にどの目標を今の時点で達成することを望むのか、望まないのかによってその国の経済政策が変わってくるし、当然その国の個性も違ってくる。そのプロセスはまさに政治プロセスの中で決まる。少なくとも経済学者は、この政策を導入するところなるという、その政策の効果を一応ベンチマークとして提示することが専門家として求められる。それは現実にそうなるとはいえないが、少なくともある条件設定の下で、A という政策を実行すれば、このような効果が出る。その代わり B という目標は犠牲になる。というようなことを提示することが専門家の知見として重要になる。その後の展開は、様々な状況設定の中で政策シミュレーションをしてこういう条件設定ではこういう政策の組み合わせがあるという理論になる。

ということでケインズ革命をきっかけとして、その種の政策課題をいかに政治的なプロセスの中で失敗のない形で導入していくかという議論になる。そこで先生は、格差問題や人権の問題などいろいろあるが、世界経済の枠組みの中で、それぞれの国々が国家運営をし

てゆく中で、重要な政策の最低限この二つは目標として設定すべきであると考える。

一つは以前からずっと言っているように、国内の問題、不況だとか景気が過熱しているとか、国内の景気判断した際に何か手だてしなければならない程の大変な状況なのか、ほどほどの不況なのかという経済判断が一つ。それから国際収支問題、国際的な関係においては経常収支の問題がある。国際関係においては国際収支が黒字にあるのか赤字になっているのかというときに、海外との取引においての不均衡が深刻なのかほどほどなのかという判断。できることなら国内の経済は好調で、海外との関係もあまり赤字が増えていなく、政策課題としても重要ではないという状況が好ましい。悪い状況は、国内も不況で、しかも海外との関係も均衡問題が恒常的になって赤字化して、そのままだと累積債務問題になるかも知れない、アメリカだとドルの価値を維持することができなくなるかも知れない、という様々な政策上の制約が厳しくなる。しかも国内は不況。こういう状況はいち早く脱出したい。そこで二つの目標、つまりできれば国際収支問題を回避したい。国内は雇用問題や失業問題が発生しない程度の景気を維持したい。この二つの政策目標をどうやって達成できるかが政策当事者としては大きな課題なのである。

そこで同時達成できるかどうかという問題が出てくる。ケインズももちろん考えた。もし国際収支の赤字の問題があまり政策課題として重要でないという風にすれば、貿易に関してはそれほど政策的に介入せずに自由貿易にしてすべての政策を国内の不況対策に向けるということになる。その逆も然りである。この問題はもうどうにもならないけれども、リスクが高まって、このままだと我が国から投資資金がどんどん出てしまい、これ以上赤字を増やすわけにはいかない。何とかして赤字を解消したいということになれば、政策課題の優先性において少々国内が不況になっても何とかして国際収支上の問題を回避した方がよいということになるかも知れない。ということで、国際経済の枠組みが、国際的な関係における不均衡と国内の不均衡問題をいかに同時に解決するか、上手に組み合わせながら解決するかという政策課題の歴史がある。

レーガン政権の時代に、アメリカは双子の赤字という時代であった。その時代、国際収支の赤字と、不況ではないのだがもう一つの赤字は財政赤字。なので政策課題においてはもう一つの課題があって、それが重要かは別として、公的なセクターの収支の不均衡。直接的に政府が何をやるべきかということの説明をするときに、国際収支が赤字であるということと、財政赤字であるということの両方を書いているということを経済学の双子の赤字という。

金融政策も財政政策も重要だということの枠組みを理論化したのがケインズである。そこで、基本的に二つの方程式をかく。まず、基本方程式といわれるもの。まず国内の不況問題や基本的に雇用問題からみて、財やサービスに対する需要はどこから発生するかという問いかけ。つまり我々は作ったりサービスを生み出しても、それに対して需要がなければ意味がない。需要というのはどういうことから来るのかをケインズを含めた研究者達は考えた。そこでまず、家計からの消費を通じて自国で作られた財やサービスを利用される。これを最終消費財という。知らん。

GATT とか